

1 「1型糖尿病」について

- 1型糖尿病の発症率は、人口10万人あたり2.25。ピークは思春期にあり、男児（1.91）より女児（2.52）の発症率が高い。
- 1型糖尿病の有病率は、約0.09%（人口10万人あたり約90人） ※国推計
- 1型糖尿病は、生命維持に不可欠のインスリンが欠乏する疾患であり、生涯に渡ってインスリン治療が欠かせず、それに対応した厳格な血糖自己管理が必要
- 発症のピークが思春期にあるため、就業や就学、結婚などのライフイベントに支障を来たさないよう、社会的啓発が求められる。

2 1型糖尿病における課題

- ✓ 1型糖尿病の中には、劇症、急性発症、緩徐進行と複数のタイプがあり、適切な診断と対応が必要
- ✓ インスリン分泌が枯渇した1型糖尿病では、血糖値が変動しやすく（不安定型糖尿病）、専門医でもコントロールが困難
- ✓ 症状が半年から数年をかけてゆっくりと進行する緩徐進行1型糖尿病の場合、症状が目立ちにくく、当初は2型糖尿病と診断され、適切な治療を受けられない場合がある。
- ✓ このため、1型糖尿病に関する医療従事者の課題共有及び患者・家族の理解促進が必要

3 今後の取組（想定）

- ⇒ 当協議会において、1型糖尿病患者の置かれている現状・課題のほか、治療や医療連携の状況などを意見交換・情報共有し、理解促進に向けた効果的な普及啓発の取組等を議論
- ⇒ 当協議会での意見交換等の情報を各圏域の検討会においても共有いただき、1型糖尿病の理解に向けた、医療従事者に対する研修や都民向け講座等の実施を検討
- ⇒ 検討会での検討状況等を把握しながら、効果的な普及啓発に向けた方策を当協議会で検討